

2020年5月28日

各 位

会 社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社
代 表 者 名 代表取締役 芝 宮 孝 司
社長執行役員
(コード番号：6616 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役 執行役員 日 笠 基
管理本部 本部長
(TEL. 03-6222-2875)

2019年度「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

この度、『コーポレートガバナンス・ガイドライン』の運営指針に基づき、2019年度における当社取締役会の実効性を分析・評価いたしましたので、その結果の概要を以下の通り開示いたします。なお、当社の『コーポレートガバナンス・ガイドライン』につきましては、当社のホームページにて公表しておりますのでご参照ください。

『コーポレートガバナンス・ガイドライン』

https://ir.torex.co.jp/ja/vision/governance/main/02/teaserItems1/00/linkList/0/link/20160623_Corporate_Governance_Guideline.pdf

I. 分析・評価方法

当社取締役会は、2019年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2020年4月から2020年5月にかけて取締役会事務局が作成した取締役自己評価調査票に基づき、社外を含む全取締役9名（監査等委員を含む）が自己評価を実施し、その結果について2020年5月の取締役会で報告があり、議論を行いました。

II. 評価項目

取締役自己評価調査票の主な項目は以下のとおりです。

1. 取締役（会）の役割・責務
2. 取締役会等の機関設計・構成
3. 取締役会の実効性・活性化
4. 任意の仕組みの活用・連携
5. ステークホルダーとの対話・開示

Ⅲ. 分析・評価結果の概要

各役員による取締役会の実効性にかかる自己評価の結果、取締役会に上程する議案の検討を通じて取締役会と執行会議の役割の見直しを行ったことにより、前年度の取締役会評価と比較して、「取締役会等の機関設計・構成」の改善度合いが高まっており、取締役会の機能の強化に向けた取り組みが着実に進んでいると評価致しました。

この評価結果を踏まえ議論した結果、2019年度の実効性は「おおむね有効であった」と結論付けました。

Ⅳ. 取り組むべき課題

当社取締役会は、取締役会の実効性を更に高めるために取り組むべき課題として、次期中期経営計画策定に向けた議論を充実させていくことを認識致しました。

Ⅴ. 今後の対応

当社取締役会は、これらの課題について議論を重ね、取締役会の実効性の向上を図り、これからも中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

以上